

上手に利用

救急医療



急な病気やけがをしたとき、誰もがつい慌ててしまいがちですが、普段から、そのような急な事態に備えておくことが大切です。9月9日は、「救急の日」です。この機会に、救急医療の正しい知識を身に付け、救急車や救急医療を上手に利用しましょう。

- ### 救急車を利用するのはこんなとき
- 呼んでも返事がない(意識がない)
 - 呼吸が苦しい、顔が真っ青、息をしていないようだ
 - けいれんが続いている
 - 急にろれつが回らなくなった、手足の動きが悪くなった
 - 車に跳ね飛ばされた
 - 高いところから転落し大きなけがをした
 - 大出血している
 - 急に激しい頭痛・胸痛・腹痛がある など

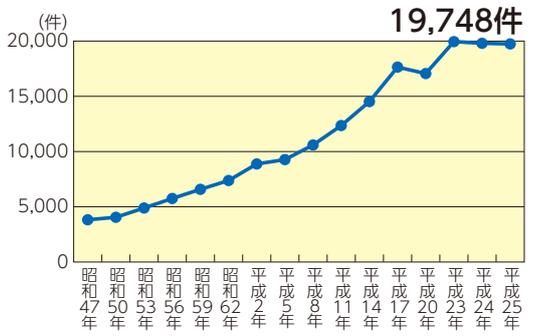
- ### 通報は慌てず正確に
- 119番にかけたときには、次のことを伝えてください。
- ①「救急です」
 - ②住所・目標になるものを明確に(携帯電話の場合は必ず市町名から)
 - ③誰がどのような状態か(呼び掛けたときの反応や意識の状態など)
 - ④通報している人の名前と電話番号

増加する救急車の出動件数

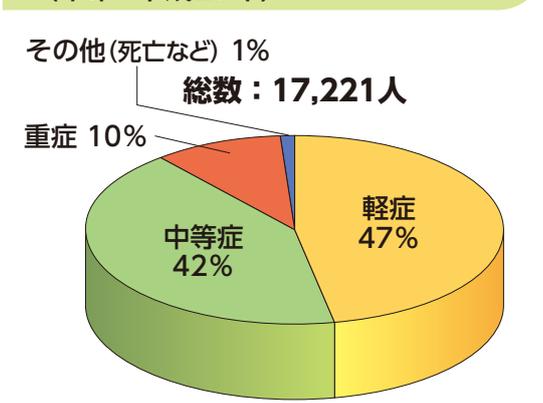
平成25年の救急車の出動件数は、1万9748件(右の表①)。平成5年の出動件数は9269件でしたので、この20年の間で、約2倍に増えたこととなります。

救急車の出動件数が年々増加している要因としては、「人口の増加」や「高齢化社会の進展」などが挙げられている一方、安易な救急車の利用も指摘されています。また、救急車で運ばれた傷病者の約半数は、入院を必要としない軽症者であ

① 救急車の出動件数



② 傷病程度別の搬送人員割合 (本市 平成25年)



私たちを守る救急医療体制

初期救急医療機関では、風邪や発熱などの主に軽症患者に対する救急医療を提供しており、市では、「夜間休日救急診療所」で外来診療を実施しています。また、突然の腹痛や骨折などで入院を必要とする場合は、地域の二次救急医療機関

私たちを守る救急医療体制

(病院群輪番制病院などが診療を担当し、さらに、心筋梗塞や脳卒中、頭部外傷など専門的な治療が必要な場合、あるいは初期・二次救急医療機関で対応が困難な場合には、三次救急医療機関(救命救急センター)で救急医療を提供しています。

また、家庭において、子どもの急な病気やけがなどに対応できるよう、「とちぎ子ども救急電話相談」(7ページ図)では、看護師によるアドバイスを実施している他、市では、状況に応じた対処法を分かりやすく解説した「救急受診

本文中に記載がないものは、原則として、対象どなたでも、費用無料、申込不要。
 区 地区市民センター、出 出張所、選 生涯学習センター、参 うつのみや表参道スクエア、HP ホームページ、Eメールアドレス、域 地域自治センター
 地区市民センター、出 出張所、選 生涯学習センター、参 うつのみや表参道スクエア、HP ホームページ、Eメールアドレス、域 地域自治センター、活 市民活動センター

